

「車と家」領域で再成長

ダイヤモンドエレHD

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス（HD）は2018年に持ち株会社体制に移行し、19年には経営危機の田淵電機を買収し、完全子会社化した。16年からダイヤモンド（当時はダイヤモンド電機）の経営を担った小野有理社長は、車と家の領域で2社のシナジーを創出し、グループとしての再成長を目指す。新型コロナウイルスの感染が拡大する中、どのように経営の舵を取るのか、小野社長に聞いた。



社長 小野 有理氏

「新型コロナウイルスの影響が深刻です。工場稼働とハンガリーの工場は状況はいかがですか。約9割の稼働率。タイ

「活動制限令などで米、インド、インドネシアの工場が停止している。中国・蘇州市

今期に黒字化目指す

は通常稼働中だ」
—20年3月期連結決算は車部品の製品補償損失や構造改革費の計上があつて当期赤字の見通し。今期も先行き不透明です。
「ダイヤモンド田淵の経営再建に同時に取り組む状態とはいえ、2期連続の当期赤字を出すわけにはいかない。新型コロナウイルスの影響は非常に大きい。知恵を絞る。得られる支援策をできる限り利用し、仲間である従業員の間である従業員の間を損なわないよう力を尽くす。最悪に備え、最善を目指す」
—設備や研究開発の現状は。

投資はどうしますか。

「インドネシア工場は21年3月期までに点火コイルの増産投資を

実行し、生産能力を現状比2倍以上の年産350万本に増やす。高機能点火コイルや、需

要が堅調な太陽光発電用パワーコンディショ

ナ、蓄電システムの開発も続ける。パワコ

ンは「レジリエンスハ

ウス」という施設を栃

木に置いて、災害時の

電力供給による家庭生

活維持を実証してい

る。これを拡大して販

売促進に生かすことも

検討中だ」

—旧田淵電機の事業

の現状は。

「事業再生ADR手続後はベトナムの工場な」
「事業再生ADR手続後はベトナムの工場な」
「事業再生ADR手続後はベトナムの工場な」

2社に横串、新体制着々と

記者の目

小野社長の強烈なリーダーシップの下、モノづくり、調達技術に横串を通して2子会社の壁をなくし、車、エネルギー、電子機器の各営業部門を支える体制づくりを進めている。車載充電器、パワーコンなど、車と家の領域で新製品の仕込みも順調という。再成長路線を確かにするため、新型コロナウイルスの難局を乗り切ることが重要だ。（大阪・錦織承平）